

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0005  
 住所 川崎市川崎区東田町8番地 6階617F  
 氏名 株式会社 デイ・シイ  
 代表取締役 神長 俊樹

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 デイ・シイ		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浅野町1番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	21	窯業・土石製品製造業
主たる事業 の内容	セメント、固化材の製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	76,288	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	409,199	t-CO <sub>2</sub>

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度～平成30年度 (報告年度30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 551,737 t-CO <sub>2</sub> (調) 513,750	(実) 599,760 t-CO <sub>2</sub> (調) 562,604	(実) 626,209 t-CO <sub>2</sub> (調) 586,395	(実) 628,405 t-CO <sub>2</sub> (調) 587,171	(実) 549,530 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) -8.7 % (調) -9.5 %	(実) -13.5 % (調) -14.1 %	(実) -13.9 % (調) -14.3 %	(実) 0.4 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	セメント生産量		単位	kg-CO <sub>2</sub> /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	847.0	895.8	880.1	859.2	843.7
削減率		-5.8 %	-3.9 %	-1.4 %	0.4 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<p>【数量】 バイオマス汚泥の使用により多少減少したが、クリカ生産数量の増加により温室効果ガスは増加した。</p> <p>【原単位】 低CO<sub>2</sub>型セメント(高炉セメント)の比率の減少により、原単位が増加した。</p>
第2年度	<p>【数量】 温室効果ガスは、バイオマス汚泥の使用増により多少減少したが、クリカ生産数量増により増加した。</p> <p>【原単位】 バイオマス汚泥の使用及びクリカ生産数量増により、原単位は前年より減少した。</p>
第3年度	<p>【数量】 クリカ生産数量増及び低CO<sub>2</sub>型セメント(高炉セメント)生産量減少により温室効果ガスは増加し、目標排出量に達しなかった。</p> <p>【原単位】 クリカ生産数量増により、原単位は前年より減少したが、低CO<sub>2</sub>型セメント(高炉セメント)の比率の減少により、目標値に達しなかった。</p> <p>【総括】 原料、焼成、仕上の各工程に省エネルギー推進チームを設定し、隔月「省エネ会議(マスタープラン報告会)」を開催し、ビジュアルマネジメントによるエネルギー使用の見える化を推進、又、定期休転の無駄電力削減のため、デマンド管理目標値を設定、各部署に周知した。しかしながら、クリカ生産数量増及び低CO<sub>2</sub>型セメントの比率の減少により温室効果ガスの排出量及び原単位とも目標値に達しなかった。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該 当事者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進</li> <li>○高炉セメントの積極営業活動</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程別に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 バイオマス汚泥、廃プラスチックを石炭の代替とすることで石炭の使用原単位を削減した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの早期実施、12:30~12:55間消灯等を継続して実施した。</li> <li>○低CO2型セメント(高炉セメント)の積極営業活動 市況により拡販が予定通りに進まず、CO2排出原単位悪化の要因となった。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程別に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 バイオマス汚泥、廃プラスチックを石炭の代替とすることで石炭の使用原単位を削減した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの早期実施、12:30~12:55間消灯等を継続して実施した。</li> <li>○低CO2型セメント(高炉セメント)の積極営業活動 市況により拡販が予定通りに進まず、CO2排出原単位は基準年度値を上回った。</li> </ul>
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程別に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 バイオマス汚泥、廃プラスチックを石炭の代替とすることで石炭の使用原単位を削減した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの早期実施、12:30~12:55間消灯等を継続して実施した。</li> <li>○低CO2型セメント(高炉セメント)の積極営業活動 市況により拡販が予定通りに進まず、CO2排出原単位は基準年度値を上回った。</li> </ul>
自動車等 (第3号該 当事者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランド'09に選定</li> <li>製品名：高炉セメントB種</li> <li>CO2削減量：ライフサイクルCO2を約40%削減</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を197,400t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を196,100t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を164,200t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議（GCエコ会議）」、「カーボンチャレンジ川崎エコ戦略」、「資源循環型社会形成連絡会議」などに参画する。</li> <li>・グリーン購入の推進を行なう。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議（GCエコ会議）」、「カーボンチャレンジ川崎エコ戦略」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行なった。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請を行った。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議（GCエコ会議）」、「カーボンチャレンジ川崎エコ戦略」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行なった。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請を行った。</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議（GCエコ会議）」及び「低CO2川崎ブランド等推進協議会」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行なった。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請を行った。</li> </ul>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	625,322	t-CO <sub>2</sub>
(調)	583,678	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浅野町1番1号	2121	セメント製造業	625,299 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	1

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浅野町1番1号	2121	セメント製造業	625,299 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	1
------	---